

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

星星闪耀 (链子市)

第103号
2019年12月19日 発行
発行責任者 工藤 忠男
編集責任者 藤身 隆雄
TEL 0479 24 2225
<http://choshi-geopark.com/>

特集 第6回日本ジオパークネットワーク

関東大会(in伊豆大島)報告

関東大会に参加して

川瀬繁子

1月11日(日)伊豆半島にて開催され参加させていただきました。開

<http://choshi-geopark.com/>

僅前日の22時、東京竹芝桟橋から船に乗り翌朝6時大島の港に到着しました。私は以前、大島に居住していました。久しぶりの島の空気は懐かしく感じました。

2日目は大島のジオツ
アーラ砂漠ツアーに参加
し「三原山噴火から30年
そろそろあるかもしけな
い」とのガイドさんの説
明にドキドキしながら広
大な自然に触れました。

17日(日)私は、ガイド分科会に参加しました。まだ勉強中の私は、5分のガイドスピーチは無理だと思いました。しかし、同グループの方がたが、銚子の事をいろいろ質問

は手切りなので、出荷時は朝2時から畑に出るそうです。こうして初めての分科会は、なんとか無事に終わることが出来ました。

の流れは、外側が冷やされ塊り、中の溶岩が流れ出てパイプ状になつた奇岩？や溶岩の流れ方が分かる皴しわの溶岩など様々な溶岩模様を呈して いる。山頂遊歩道に向う

山する」といふ。カルデラ内に戻ると嘘のように風もなく気温も上昇。洋上の孤島の大島は水蒸気を十分に含んだ大気が山にぶつかり上升することで霧が発生しや

オパークネットワーク 11月16日(土)竹芝桟橋から夜10時の船で大島に向かいました。初めての船中泊でちょっと、どきどきしていました。
出来方について学ばせていただきました。閉会後、宿泊先の大島温泉ホテルにて交流会があり各地の方々と時間を共にし1日終了。

水を運んだそうです。「下仁田ねぎ」は、皮付き一本のまま、火に焼けて食すると、とろりと甘くなり、最高だそうです。「嬬恋高原キヤベツ」は、今では大規模栽培で、機械化されているということでした。しかし、キヤベツ

は、はつて、いたといふ登山道
は、舗装され、当時を窺うこ
とは、できない。途中、1
986年噴火の際、カル
デラ内に、流れ出た、厚さ5
㍍もある、溶岩の先端部に
皆で、登る。また、江戸時
代噴火跡も、随所にみられ
る。粘り気の少ない、溶岩

神社がある。昭和の大噴火の際、溶岩流はなぜか社殿の直前で両側に流れを変えたという。この辺りから霧も深く、気温も下がり風が強くなる。ガイドの判断で、お鉢巡りは中止に。火口展望場へ向かう。火口は見えず下

① 原山ジオツアー

宮内
勅

大会は島の小学校を会場に参加の10地区のPRや活動発表がされたり、各地区の特産品や大島の明日葉など地元の素材を使用した郷土料理が出展されており各地の特徴ある文化などを知ることができました。午後からは

島は椿の頃。観光はで
きませんでしたが多くの
方々との交流もあり充実
感の残る2日間でした。
これからも個性溢れる
各地の温泉を巡りながら
元気な地球の活動を体感
していくたらと思つてい
ます。

してくれました。気がつ
くと、私は、愛宕山や屏
風ヶ浦のガイドをしてい
ました。大島の方は「あん
こさん」のことを「下仁田
の方は「下仁田ねぎ」のこ
とを、浅間山麓の方は「嬬
恋高原キャベツ」のこと
を話してくれました。「あ

①二原山ジオツアー
宮内 敏

と道も少し急傾斜に。ガ
イドの一声で小休止。

すい。日視範囲の現象は
理科の実験室を見るか
のようだ。外輪山展望
台に戻り振り返ると霧
も晴れ三原山が見えた。

分科会に参加し、地球活動のミニ実験などで発表意見交換がされ私は火山噴火のカルデラ、地層の

ガイド分科会に

参加して
向後和子



パイプ状の溶岩